

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400112		
法人名	社会福祉法人 安全福祉会		
事業所名	グループホーム 安全の里		
所在地	三重県亀山市住山町590番地1		
自己評価作成日	令和 4年 10月 19日	評価結果市町提出日	令和5年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2490400112-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4年 11月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム安全の里では法人の理念に基づいて家族や地域と共に支え合い、自分らしく生活して頂ける様に自立支援を目指したケアを心がけ、ご本人、ご家族様の立場に立ち安心、かつ優しい介護を行っています。また、楽しみの一つである「食」を大切にして、行事食、季節の食材を取り入れた献立を立てて、手作りの食事を利用者様と一緒に考え、提供させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

亀山市北西部、山を切り開いた広大な土地に、養護・特養(従来型とユニット型併設)・通所介護・居宅介護支援事業所・グループホームの立派な建物が安全の里の福祉施設として林立している。グループホームは開設して4年半が経過し、自然豊かな場所で職員の手厚い介助を受けて生活をしている。コロナ禍において制限される中、広い土地を利用して整備された広くゆったりとした中庭への散歩をする支援を実践している。日中おおよそ過ごすことの多い居間兼食堂は、大きなガラス戸や天窓から日差しが差し込んで明るく暖かい。食堂の椅子やテーブルは少人数で利用できるようにコンパクトで三角形であったり、椅子の高さも既製品より低くそれぞれが特注家具で、利用者に優しい配慮がある。特に利用者一番の楽しみである食事に事業所は力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所でのキャッチフレーズを考えケアを行っている。	自立支援を目指したケアの実践に努めている。キャッチフレーズ(明るく、楽しく、のんびり、笑顔で生活できる)は、玄関に掲げている。利用者と話をする時は、目線を合わせた位置で話すよう指導をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により地域との交流は全く図れなかった。	コロナ感染拡大が続く中、外部との接触は法人全体としても困難な状況で、地域とのつきあいはできなかった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響により地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人のコロナウイルス感染対策により、議事録を作成し、各関係者に説明、配布を実施している。	コロナ禍で委員が集まった会議の開催はできなかったが、文書でもって代用した。事業所の現況活動報告、事故、ヒヤリハット報告をしている。	運営推進会議は相互の意見交換の場である。コロナ禍での開催は難しいが、報告する一方通行では受ける側からの意見・要望等が発信できないので、例えば返信封筒を同封して意見を求める等、工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町との協力関係の構築、体制はできているが日頃から密に連絡を取り合っていない。	市(広域連合)へは、利用者情報提供をしているが、今の状態では電話・FAXで済ませて出向くことはできない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や学習会にて、職員の意識、知識の向上を図り、共有を行っている。	身体拘束廃止委員会は3か月ごとに開催、学習会で具体例などで研修を実施している。現在の利用者に身体拘束にいたる方はいないが、ドラッグなどの3ロックなど研修で学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や学習会にて、職員の意識、知識の向上を図り、共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会にて職員の意識、知識の向上を図り、共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染対策により、面会の制限があり、十分とは言えないが、来設時や、定期的に電話連絡にて状況説明等の報告を実施している。	面会は制限中であり、衣類やおむつなどの持参時は、玄関や居室のガラス戸の窓越しで対面してもらっている。家族へは電話やラインで随時連絡をして様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で職員と話す機会を設け、反映させる様にしている。	いつでも職員からの要望が出されている。入浴日の曜日設定は決めていたが、利用者の中には決めた通りに行かないこともあり、基本的に週3回の入浴をすることを守り、臨機応変の対応するように変更したら、うまく入浴ができるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて、定期的な給与規程の見直し、勤務状況の把握、衛生推進者の配置を行い職員の労務実態を常に把握し、過労等がないか注意をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はあまり参加できなかったが、法人内の新人研修等、人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流機会がなく同業者との交流は図れなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員同士での情報共有を行いながら、積極的に関わりを持つことを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的にご家族様と連絡を取り、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態が変化していく中で随時、報告、相談を行い、医療機関等にも相談し助言を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者様の尊厳を尊重した関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係性を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響にて面会や外出行事が殆どできない状況であったが、ドライブ行事にて利用者が暮らしていた地区に出かけたり、ガラス越しの面会をして頂いている。	コロナ禍で面会・外出は制限している。事業所でマイクロバスを所有しており、バスでドライブに出かけ、自宅の近くまで行って、様子を車窓から見れる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各職員が利用者同士の関係性を把握し、良好な関わりが持てる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設でも安心してサービスが受けられるように退所前の相談、他の施設の情報収集を行い、他の施設と連携を取り、フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での会話の中で聞き取り、また家族様にも情報収集を行い、把握に努めている。	季節の変わり目は特に不安定になるので、孤立しないよう輪の中に入ったり、場所を移動して気分転換を図っている。思いは会話・動作・所作から変化を把握し、わからない時は、家族から聞いて把握している。職員は、連絡ノートやタブレットで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入試時のアセスメント、家族からの情報をもとに把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	積極的な関わりを持ち、職員間での情報共有にて把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で意見を出し合い、本人がよりよく生活できるように介護計画を作成している。	介護課長が計画作成者で、現場で業務をしており、利用者それぞれを把握している。職員は利用者担当制で、計画の見直し時はサービス担当者会議を開き、情報を収集しモニタリングを実施している。月1回、カンファレンスを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ICTを活用して介護記録を記入し、職員間で情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出等、ニーズに対応できていない事もあるが型に捉われず柔軟な対応やサービスに取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域資源の活用は活かしきれていないが、把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し、かかりつけ医との関係も良好に築けている。	それぞれが従前からのかかりつけ医である。週1回の訪問看護を利用し、医療との連携もある。特に法人内の特養の医師にはお世話になっている。口内炎で食事が出来なかった利用者が、訪問歯科の口腔ケアを受けて改善できた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと随時連携し、適切な看護や、指示を受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	随時、家族、病院関係者との情報交換や相談を行っている。また、訪問看護ステーションの助言や協力もあり、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化、重度化が進行していくなかでご家族に相談を行い、またご本人にも日々の関わりの中で意向を可能な限り聞き取り、家族、医療機関と連携をとりチームでの支援に取り組んでいる。	看取りはする方針であるが、その時になったら、どうするかは選択肢は示し、十分に話し合いを持って希望を尊重し望む道を選択してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会での緊急時の対応についての共有、また、訪問看護師に助言を受け取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	学習会や、防災訓練等により意識の向上を図っている。	3月、9月併設施設合同で防災訓練、特に火災・土砂災害を想定した避難訓練を実施している。訓練後、防災反省会を行い、課題を出している。その後、法人全体での防災技術会議で検討をしている。法人は福祉避難所の受け入れできる施設として市と協定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや接し方に配慮し、笑顔で優しい介護に取り組んでいる。また人格を把握、尊重し、プライバシーの保護に配慮を行っている。	職員は、接遇マナーの研修で学んでいる。羞恥心の伴うことでの言葉遣いには注意している。呼称の呼び方にも気を付けている。一人ひとりに近寄り、体に触れるスキンシップを心がけて信頼関係を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、本人の思いを確認して自己決定をしてもらえるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の生活スタイルやペースを把握、共有しながら希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者のこだわりや嗜好を把握し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや希望を随時間き入れ、時には利用者と一緒に調理の手伝い等をしてもらい関わってもらっている。	食べることが一番の楽しみで、食については特に力を注いでいる。食材はネットスーパーで調達して、献立は職員が立て、手作りのものが提供されている。コロナ禍での外食はできないので出前が楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を見ながらメニューに偏りがないように工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを職員が付き添いながらしてもらっている。また定期的な歯科往診にて助言を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの状況を確認し随時、話し合いにて変更等を行っている。	居室にトイレが設置してあるのが3室である。夜間はオムツ使用の方も、昼間はリハビリパンツでトイレでの排泄である。誘導で全員がトイレでの排泄をして自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便リズムの把握に努めており、食材の工夫や、下剤服薬により、排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、曜日を固定せず、入浴日の間隔を考慮して、本人の希望も聞き入れ誘導を行っている。	曜日は決めず、週3回、入浴するようにしている。時間は午後の2時ごろから4時ごろである。入浴中は職員と1対1になり、会話も弾み貴重な時間である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や照明等の環境整備に配慮し、就寝前には心穏やかに過ごしてもらえる様に声かけや関わり方にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤ファイルにて職員全員に内容を確認できるようにしている。受診後等、変更があった際はその都度記録にて共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意なことを見極め、洗濯物たたみや掃除をして頂いている。利用者からも「自分がしなければ」という声もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で外出行事は数回しか実施できていないが、天気が良い日には中庭の散歩を行い、少しでも気分転換になれるように支援している。	コロナ禍では思うように外出はできず自粛中である。事業所周辺は広く、中庭が整備してあり、そこへ散歩をしている。マイクロバスで自宅周辺など懐かしい場所へお出かけすることもある。事業所周圍は木々が残って自然豊かで癒しの場でもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は本部にて預かっており、日用品購入や、理髪、受診の際は、預かり金にて支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴えがある際は、施設から連絡を取り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除や整理整頓、室温調整を随時行っている。季節の花を生けたり、毎月利用者と一緒に貼り絵の壁紙を制作し季節感を感じてもらっている。	居間兼食堂には2台のテレビが置かれて、好みの番組を楽しめる。大きなガラス戸、木の梁の上の天窓から光が差し込まれて明るい。廊下も広くゆったりとしたスペースである。それぞれのテーブルに季節の花が飾られて季節感がある。壁に大きな鳥居の絵が飾られて、利用者は毎日手を合わせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係や意向を把握して工夫し、思い思いに過ごせてもらえる様に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や好みの物を持って来てもらい、家族様と相談、協力をしてもらい環境づくりを工夫している。	各居室には、洗面台が設備され、さらに3つの居室はトイレ付きである。テレビや収納の衣装ケースやタンスなどが持ち込まれている。中には、余分なものを一切置かない方もあり、それぞれ思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分からない利用者がみえる為、表札を作成したり少しでも自立できる環境整備に取り組んでいる。		